

《入選》

人権作文

鳥居本中学校 三年

後藤 咲良 さん

私たちの人権は一九四八年、今から約七十五年前に採択された「世界人権宣言」により保障すべきと定められている。しかしながら、時代の変化と共に人権侵害は、減少するどころか増えている。特にインターネットの普及による人権侵害は、今を生きる私たちにとって真剣に向き合うべき重要な課題の一つだろう。インターネットを通じて誰もが価値観を共有できる便利な時代。だが、そこには多くのリスクも潜んでいることを忘れてはいけない。

根強く私たちを支配し、生

きづらさを与える人権侵害。それは他でもない人間によって生み出されてきたものである。そして人権侵害によって心に傷を負うのももちろん人間なのだ。私たちは何度このような過ちを繰り返してきたことだろう。人権侵害がさも当然のように存在するこの社会はなぜ変わらないのか。人権学習を終えた私の中にはそんな疑問が浮かんできた。

考えてみると、身近にある人権侵害はいつも価値観の違いから生まれていた。インターネット上でもそうだ。アンチといわれる人は、自分の価値観を絶対とし、相手にも同じように求める。少しずれているだけで攻撃的とするのだ。だが他人事ではない。あなたも一度は、相手の考え、行動に違和感を持ったことがあるだろう。きつかけは本当に些細なことなのかもしれない。

れない。

「価値観」は、形作られるまでの過程、つまり人生が十人十色なのだから、違うのは当然。加えて私たちの人生は一度きりで、誰かの人生を歩むことはできない。「価値観」は共感しがたい部分なのだ。しかし、それは相手を傷つけていい理由には断じてならない。私は「価値観」もその人自身の一つの個性だと思う。ゆえに他人が否定していいものではないのだ。また、相手の価値観に寄り添い、時には考えを改める柔軟な思考も必要だ。だが一度植えつけられた「価値観」に上書きをすることは容易でない。なので私は「価値観」を形成中の私たち若い世代が正しい知識を得ることで日本の未来は変われると思う。今までの常識にとらわれず、本質と向き合い、様々な「価値観」を共有することで私たちはこ

れから広がる可能性をより豊かにできる。

インターネットの普及により、「価値観」の交流が盛んになった今、想像するよりもぐっと身近なところに人権侵害は存在する。そんな社会を変える為にも私たちが若い世代は、正しい知識を身につけ、より良い判断をしなければならぬ。明るい未来を切り開くためにも私は、「価値観」を見直すことから始めようと思う。